

第5章 駅関連施設整備の検討

駅関連施設として、辻堂駅西口駅舎、ホーム、西口跨線橋、西口北側駅前広場及び駅前地区を整備方針について検討する。

これらのうち、西口駅舎、ホーム、西口跨線橋については、既存施設のリニューアルとなるため、バリアフリー対応や利便性の確保など、可能な限り理想的な施設整備を目標とする。

また、西口北側駅前広場と駅前地区については、まちの顔となる施設としての検討を行う。

1．西口駅舎

増加する利用者の利便を図るため、駅舎施設を改良し、機能の拡充を図る。

駅利用者の滞留が跨線橋利用者の動線を阻害しない構造とする。

改札内通路から駅ホームへのエレベーターを設置し、バリアフリー対応とする。

ラッシュ時にも対応できるように、改札機の増加等を図る。

2．駅ホーム

- ・増加する利用者の安全を確保し、利便性を図るため、駅ホームの拡幅とエレベーターの設置を行う。

3．西口北側駅前広場

自動車及びバスのアクセスは辻堂駅中心部の本屋口とし、西口は周辺地域を主とした歩行者のための広場空間とする。

茅ヶ崎市の地区拠点機能を担う辻堂駅西側の玄関口として相応しい、シンボル空間とする。

現状で設置されている機能（トイレ）は継続設置するとともに、周辺地域を中心とした歩行者の憩いと待ち合わせのための空間とする。

4 . 西口跨線橋

現況の幅員 3m を 6m に拡幅し、将来の需要増に対応可能な幅員を確保するとともに、地域の顔として相応しい機能と景観を有したものとす。

自転車と歩行者の両者が安全で円滑に通行できるよう、歩行者と自転車の分離が可能な幅員と機能を確保する。

自転車の利用できる斜路付き階段を設置する。

南北それぞれにエレベーターを設置し、自転車も利用可能とすることによって、車椅子利用者や自転車利用の高齢者にも配慮したバリアフリー対応の施設を整備する。

辻堂駅の主要なアクセス路線である赤松通り～初タラ線は自動車通行量の増加が見込まれるため、この道路を立体歩道橋で横断する機能を確保する。

南側階段・スロープは、藤沢市域内の用地を確保することが前提となることから、中長期的な施策として引き続き藤沢市と協議を行い、整備の推進を図る。

5 . 駅前地区

駅前地区は西口に一番近い地区であり、駅前に必要な公共・公益サービス施設等を民間活力により整備・誘導していく。

自転車駐車場

外来者が駅から目的地まで向かうのに対応したレンタサイクルや、自転車のメンテナンスも行えるサイクルステーション等。

公共公益サービス機能

少子高齢化に対応した子育て支援センター・保育所、また、利便性をより向上させた行政窓口・相談サービス機能施設や、市民が集まり交流する場づくりを目的とした文化・教育施設等。

健康増進・リラクゼーション（休憩）施設

駅前の待ち合わせや、駅利用者の休憩スポット、また、仕事帰り等に気分転換ができるリラクゼーション施設（エステ・マッサージ等）や健康増進施設（銭湯・ジム等）の設置等。